

用語集

※()内の数字は各計画の初出ページとなります。

アルファベット表記

【GAP（農業生産工程管理）】 環(35P)

農業における、食品安全・環境保全・労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことです。

【LED】 環(28P)・温(17P)

発光ダイオードともいいます。白熱電灯や蛍光灯と比較して寿命が長く使用電力が少ないため、省エネルギー照明機器として普及が進んでいます。

【RCP8.5 シナリオ】 温(11P)

国連気候変動に関する政府間パネルが第5次評価報告書で公表した、今後の100年間でどれくらい平均気温が上昇するかを示したシナリオの1つです。RCP8.5シナリオは、最も気温上昇が高くなった場合のシナリオで、4度前後の上昇が予測されています。

【RDF（廃棄物固形燃料）】 環(21P)・温(25P)

一般には家庭から排出される生ゴミやプラスチックゴミなどの廃棄物を圧縮して円形状などに固めたもので、温水や発電用ボイラー燃料として利用されています。本市では、生ゴミや紙おむつなどの徹底したゴミの分別が実行されているため、収集されるゴミの水分量が低く、他の地域と比較して発熱量の安定したRDFの生産が行われています。

【ZEH・ZEB】 温(24P)

断熱性能向上や高効率機器の導入で、室内環境を維持しつつ省エネルギーを実現した上で、太陽光パネルの設置などにより住宅でつくったエネルギーの量が、1年間に消費したエネルギーの量よりも多い、あるいは差がゼロになる建物のことです。一般住宅の場合はゼッチ（Net Zero Energy House）ビルの場合はゼブ（Net Zero Energy Building）と呼ばれています。

あ行

【アイドリングストップ】 温(24P)

二酸化炭素排出抑制、大気汚染防止を目的として、自動車の停車中にエンジンを不必要にアイドリング（エンジンが稼働状態のこと）することを自粛することです。

【アジェンダ】 環(5P)

検討課題、協議事項、議題、行動計画、政策などの意味を持つ英単語です。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、検討課題としての意味合いが強くなっています。

【アスベスト（石綿）】環(16P)

天然鉱物に由来する繊維状の物質で、耐熱・耐摩耗性、耐腐食性にすぐれるため建材等として多く使用されてきました。一方で、大気中に飛散したアスベスト繊維を吸い込むと肺気腫等の健康被害を引き起こす恐れがあることが問題になり、国内では現在労働安全衛生法、大気汚染防止法などによって規制・管理されています。

【一酸化二窒素（N₂O）】温(4P)

温室効果ガスの1つで、自動車の走行や廃棄物の焼却、工業プロセスなどから排出されます。温室効果は二酸化炭素の298倍となっています。

【うちエコ診断】環(28P)

家庭の年間エネルギー使用量や光熱費などの情報をもとに、居住地域の気候やライフスタイルを考慮しながら無理なくできる省エネ・省二酸化炭素対策を診断するものです。

【エコドライブ】温(24P)

「環境にやさしい」自動車の運転方法です。アクセルをそっと踏むことや加減速の少ない運転、早めのアクセルオフなどがエコドライブの手法としてあげられています。

【エネルギーマネジメントシステム】温(24P)

情報通信技術を活用して、家庭・オフィスビル・工場などのエネルギー（電気やガス等）の使用状況をリアルタイムに把握・管理し、エネルギー利用を最適化するシステムです。

【温室効果ガス】環(前段)・温(3P)

大気を構成する気体のうち、赤外線を吸収して再放出する気体です。太陽光により暖められた地表面から放射される赤外線を吸収し、一部を再放射して地表面の温度を高める効果（温室効果）があるため、人による地球温暖化の原因物質と考えられています。二酸化炭素（CO₂）、一酸化二窒素（N₂O）、メタン（CH₄）、ハイドロフルオロカーボン（HFC）、パーフルオロカーボン（PFC）、六フッ化硫黄（SF₆）、三フッ化窒素（NF₃）の7種類が対象として定められています。

か行

【カーシェアリング】温(24P)

登録を行った会員の間で、特定の自動車を共同使用するサービスやシステムのことで、レンタカーに近いシステムですが、レンタカーよりも短い時間での利用が想定されています。

【カーボンフットプリント】温(25P)

商品やサービスの原材料調達・生産・流通・廃棄・リサイクルなどのライフサイクル全体における温室効果ガス排出量を、二酸化炭素換算で表した指標です。消費者が二酸化炭素排出抑制に配慮した商品を選ぶ際の目安となります。

【海洋プラスチック】 環(3P)

マイクロプラスチックなどの、海に流出したプラスチックゴミのことです。プラスチックは自然分解されずに半永久的に残るため、不適切な廃棄物処理やポイ捨てなどによりごみが大量に海に流れ出て、海洋環境を汚染するなど悪影響を及ぼしています。

【外来生物】 環(18P)

本来の分布範囲と異なる地域に人為的（意図的・非意図的問わず）に持ち込まれた動植物です。在来生物種（もともとその地域に分布する生物）に対して、捕食や生息地をめぐる競争、遺伝子かく乱などの影響を及ぼす恐れがあります。日本では、平成 17（2005）年に施行された外来生物法により、特に影響の強い生物を「特定外来生物」として指定し、国内への持込みや使用、野外への放出を制限しています。

【環境家計簿】 温(25P)

家庭で消費・排出される電気やガス、化石燃料、水道などのエネルギー・資源と廃棄物から発生する二酸化炭素の排出量を計算するものです。

【環境基本計画】 環(3P)

環境基本法第 15 条に基づき国が策定する計画です。また、都道府県や市町村などの地方自治体でも、地域における環境施策の基本的な枠組みを定め、地域の目指す環境像を実現するための計画として策定されています。

【環境基本計画推進会議】 環(39P)

市の庁内において、施策の推進に関する全庁的な組織として、庁内関係各課の代表で構成されている会議です。環境関連施策の総合調整と、環境計画全体の進行管理を行っています。

【環境基本法】 環(39P)

平成 13（2001）年に制定された、公害対策基本法を前身として、環境政策の総合的な枠組みを示す基本的な法律です。持続可能な社会の構築、国際協調による地球環境保全などを理念としています。そのほか、国・地方公共団体・事業者・国民の環境保全に対する責務を明らかにし、各種施策（環境基本計画や環境基準）を規定しています。

【環境共生型住宅】 温(24P)

地球環境・周辺環境への配慮を行うと同時に快適な住環境を実現させた住宅及び住環境のことです。風や太陽光を取り入れることによる周辺環境との調和、太陽光発電や高断熱工法による省エネルギー性能、長い期間使用可能な構造、などを持つ住宅を指します。

【環境審議会】 環(4P)

環境基本法に基づき、環境保全に関して学識経験のある方を含んだ方々で構成される会議です。市の環境

施策の進捗状況や達成状況、市民や事業者の意見は環境審議会に報告され、そこでの意見が次年度以降の各取組に反映されることとなります。

【緩和策】 温(22P)

地球温暖化対策の1つで、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減・吸収を行う対策です。

【機能更新型市街地整備手法】 環(27P)

国土交通省が推進する市街地整備手法で、市街地整備をとりまく環境の大きな変化を踏まえ、機能純化に基づく合理的な市街地から、市民の様々な活動や生活が織りなす持続可能で多様性に富んだ市街地への転換を目指すものです。

【吸収源】 環(27P)・温(17P)

正式には二酸化炭素吸収源といい、地球温暖化の主要因となる温室効果ガスを大気中から除去・固定するような機能です。主な吸収源としては海洋・森林・土壌があり、森林に関しては、間伐等の適切な森林経営によって吸収源機能が増大するとされています。

【近自然工法】 環(17P)

地球環境や自然生態系に配慮した、自然生態系が復元するように整備する工法のことです。

【クリーンエネルギー自動車】 温(24P)

ガソリンなどの化石燃料の使用をゼロまたは大幅に減らして、環境負荷を和らげる自動車のことで、次世代自動車とも呼ばれています。日本政府では、ハイブリッド自動車(HV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)、電気自動車(EV)、燃料電池自動車(FCV)、クリーンディーゼル自動車(CDV)、天然ガス自動車(CNG)の6種類を対象としています。

【グリーンツーリズム】 環(33P)

農業や漁業を楽しみながら地方に滞在し、地域の人との交流や、文化・自然を楽しむ休暇の過ごし方です。農村や漁村の活性化につなげるのが目的となっています。

【広報ふらの】 環(32P)

市が毎月発行している、市の情報をPRするための広報誌です。

【国有林】 環(16P)

国が所有する森林・林野のことです。国有林は、重点的に発揮させるべき機能によって3つの類型(水土保持林・森林と人との共生林・資源の循環利用林)に区分されています。

【国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)] 温(11P)

「①温暖化に関する科学的な知見の評価」、「②温暖化の環境的・社会経済的影響の評価」、「③今後の対策

のあり方」の 3 つを主要課題として検討するために、各国の研究者が参加して議論を行う公式の場です。UNEP（国連環境計画）及び WMO（世界気象機関）の共催により昭和 63（1988）年に設置されており、温暖化の予測、影響、対策に関する総合的な評価報告書を発表しています。

【コミュニティカー】環(26P)

交通空白地域や交通不便地域の解消を図るため、自治体が主体となり、地域の実情に合わせて運行されるバスなどのことです。

【コンパクトシティ】環(26P)

居住地域が郊外に広がることを抑え、都市の中心部にさまざまな都市機能を集約するまちづくりのことで、人口減少やインフラの維持、持続可能な都市の形成などに対応するために取組が進められています。

さ行

【再資源化率】環(21P)

使用済物品などのうち、有用なものの全部又は一部を再生資源や再生部品として利用することができる状態にした割合です。

本市におけるリサイクル率の考え方で、収集されたゴミから埋立、焼却処分を差し引いた資源化物の割合を示したものです。「(ゴミ収集量－(埋立処分量＋焼却処分量))／ゴミ収集量」

【再生可能エネルギー】環(5P)・温(17P)

自然界から半永久的に得られる、継続して利用できるエネルギーの総称です。比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないため、地球環境への負荷が少ないエネルギーとされています。「エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律（エネルギー供給構造高度化法）」では、再生可能エネルギー源として、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱、バイオマスと規定しています。

【三フッ化窒素 (NF₃)】温(4P)

温室効果ガスの 1 つで、半導体や液体基盤の洗浄時などに排出されます。温室効果は二酸化炭素の 17,200 倍となっています。

【持続可能な開発目標 (SDGs)】環(前段)・温(3P)

経済・社会・環境の 3 つのバランスがとれた社会を目指すための世界共通の行動目標で、平成 27(2015)年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中核をなすものです。

令和 12（2030）年までに持続可能な社会を実現するために 17 の目標と、それらを達成するための具体的な 169 のターゲットで構成されています。

【市有林】環(16P)・温(27P)

市町村が所有する森林のことで、公有林の一部です。

【私有林】 環(16P)

個人、または企業・社寺などの法人が所有する森林のことです。

【循環型社会】 環(4P)・温(22P)

廃棄物等の発生の抑制、有益なものの再活用、再活用できないものの適正な処理を行うことで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り減らす社会のことです。

【小水力発電】 環(28P)・温(26P)

再生可能エネルギーの一つで、河川や水路に設置した水車などを用いて発電するものです。ダム式の大規模な水力発電とは区別されています。

小水力発電の厳密な定義はありませんが、「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法」では出力1,000kW以下の水力発電設備と定義されていることから、1,000kW以下の水力発電設備を小水力発電と呼ぶこともあります。

【食品ロス】 環(3P)

売れ残りや食べ残し、期限切れなどの理由で、本来食べられるのに廃棄されてしまう食品のことです。食品ロスは、単に食料を無駄にしているだけでなく、そのゴミ処理に多額のコストがかかることや、燃やされることで二酸化炭素が発生するなど、環境への負荷も発生しています。

【森林学習プログラム】 環(31P)

東大演習林で、研修を積んだ森林学習サポーターが市内の小中学生に行っている、森林の生態や森づくりを学ぶプログラムです。

【水源かん養】 環(16P)・温(27P)

森林土壌が降水を吸収・貯留し、地下水として徐々に放出する機能です。河川の流量を一定に保つことで、周辺地域の洪水や濁水を防ぐ効果があります。

【水素エネルギー】 温(26P)

水素を燃料としたエネルギーのことです。水素は地球上に豊富に存在しており、燃焼させても水を生成するのみであることから、極めてクリーンな燃料です。

【ストック】 環(10P)

公共施設やインフラ設備など、社会基盤となる設備・建物のことです。

【3R】 環(10P)

リデュース（Reduce：廃棄物等の発生抑制）、リユース（Reuse：再使用）、リサイクル（Recycle：再生利用）の3つの頭文字をとったものです。循環型社会を構築していくためには、リデュース、リユース、

リサイクルの順で取り組むことが重要となっています。

【生態系】 環(5P)・温(3P)

食物連鎖などの生物間の関係と、水や大気などの無機的環境の間の相互関係をひとつのまとまりとして捉える概念です。

【生物多様性】 環(前段)・温(22P)

様々な生き物同士の繋がりとそれを支える環境からなる総体を示し、遺伝子・種・生態系の多様性を含む概念を意味するものです。

【ゼロカーボンシティ】 温(3P)

令和 32（2050）年に、温室効果ガスの排出量又は二酸化炭素の実質ゼロを目指すことを公表した地方自治体のことです。

【総合計画】 環(6P)・温(3P)

地方自治体が策定する、自治体のすべての計画の基本となり行政運営の総合的な指針となる計画のことです。

た行

【太陽光発電】 環(26P)・温(17P)

太陽光のエネルギーを直接的に電力に変換するシステムで、太陽光を電気（直流）に変える太陽電池と、発電した電気を直流から交流に変えるインバータなどで構成されています。

【脱炭素社会】 環(7P)・温(3P)

地球温暖化の原因となっている温室効果ガス排出量を、排出抑制や吸収源対策等を行うことで実質ゼロにすることを目指す社会です。

【地域循環共生圏】 環(3P)

各地域が地域資源を最大限に活用しながら、自立・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域と資源を補完して支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方です。

国の第五次環境基本計画（平成 30（2018）年 4 月策定）で提唱された考えで、都市と農山漁村の連携などが挙げられます。

【地球温暖化対策計画】 温(3P)

平成 28（2016）年に国が地球温暖化対策推進法に基づいて策定した、地球温暖化対策の総合的かつ計画的な推進を図るための、地球温暖化に関する総合計画です。

【地球温暖化対策実行計画】 環(前段)・温(16P)

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、地方公共団体が策定するとされているものです。

市では、「富良野市総合計画」や「富良野市環境基本計画」等との整合を図り、市の中長期的な将来を見据えた「脱炭素社会のまち」を実現するため、市民、事業者、市が一体となり、地球温暖化への対策に積極的かつ効率的に取り組む指針となるものとして策定しています。

【地球温暖化対策の推進に関する法律】 温(3P)

京都議定書の策定を受け、国・地方公共団体・事業者・国民が一体となって地球温暖化対策に取り組むための枠組みを定めた法律です。

【地産地消】 環(15P)・温(22P)

地域で生産された農作物等をその地域で消費することで、輸送・貯蔵などにかかる環境負荷を抑え、同時に農林漁業等の地域産業を活性化させるしくみです。

【地中熱】 温(26P)

地表付近の地中にある低温の熱です。地表から約 10~15m ほどの深さの温度は年間を通して変化がほとんどないため、その熱を利用して冷暖房や給湯、融雪などに利用されます。熱の採取場所や用途の限定性などから、地熱とは区別されています。

【長期優良化】 温(24P)

家屋や建物・施設が、建設・撤去される際の大量の資源・エネルギー消費と廃棄物の発生を抑え、住民が家屋を長期間にわたって快適に使用できるように改修等を行っていくことです。

【鳥獣被害】 環(18P)

野生鳥獣による農林水産業等への被害のことです。昭和 55（1980）年代後半まではスズメ、カラス、ムクドリ等による鳥害が多くなっていましたが、近年はイノシシやニホンザル、道内ではヒグマやエゾシカによる獣害が全国規模で問題となっています。同時に、アライグマやハクビシン等外来生物による被害も増えつつあります。

【適応策】 環(10P)・温(19P)

地球温暖化対策の 1 つで、温暖化によって変化した気候に合わせた社会を作っていくことで、気候変動の影響を最小限にしようとする対策です。

な行

【夏日】 温(11P)

最高気温が 25 度以上となる日のことです。

【二酸化炭素 (CO₂)】 温(4P)

温室効果ガスの 1 つで、化石燃料や電気などエネルギーの使用や、セメント製造、廃プラスチックの焼却などから排出されます。温室効果ガス排出量に占める割合が極めて大きく、日本では温室効果ガスの 90% 以上が二酸化炭素となっています。

【熱帯夜】 温(11P)

夕方から翌日の朝までの最低気温が 25 度以上となる夜のことです。

は行**【パーフルオロカーボン類 (PFCs)】 温(4P)**

温室効果ガスの 1 つで、半導体製品の製造・使用・廃棄時などに排出されます。温室効果は二酸化炭素の 7,390~17,340 倍となっています。

【バイオマス】 温(26P)

生物資源量を表す概念で、再生可能な生物由来の有機性資源のうち、化石資源を除いたものです。廃棄物系バイオマス、未利用バイオマス、資源作物に分類されており、再生可能でカーボンニュートラル（排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同量であるため、二酸化炭素が増えないという概念）な資源とされています。

【排出係数】 温(7P)

燃料の使用に伴ってどれだけの二酸化炭素が排出されるかを表すものです。

【ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)】 温(4P)

温室効果ガスの 1 つで、カーエアコンや冷蔵庫からの使用時・廃棄時などに排出されます。温室効果は二酸化炭素の 12~14、800 倍となっています。

【ハザードマップ】 環(28P)

被害予測地図とも呼ばれるもので、地震、洪水、津波などの自然災害による被害を予測し、被害の発生範囲や二次災害発生予想箇所、避難経路などを地図化したものです。災害による被害を低減するために作成・使用されています。

【パリ協定】 環(前段)・温(3P)

平成 27 (2015) 年 12 月に採択された、気候変動に関する国際的枠組みで、平成 9 (1997) 年に採択された京都議定書の後継となるものです。途上国を含むすべての参加国に、温室効果ガスの排出削減・抑制目標が定められています。

【パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略】 温(3P)

令和元 (2019) 年 6 月に閣議決定された、パリ協定に基づく温室効果ガスの低排出型の発展のための長

期的な戦略です。

なお、この戦略では、「令和 32（2050）年までに 80%の温室効果ガスの削減」が目標となっていますが、令和 2（2020）年 11 月に、この目標を上回る「令和 32（2050）年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロ」を目指すことを首相が表明しています。

【風力発電】 温(22P)

風の運動エネルギーを風車によって回転エネルギーに変え、その回転を直接、または増速機を経た後に発電機に伝送し、電気エネルギーに変換する発電システムです。

【冬日】 温(12P)

最低気温が 0 度未満となる日のことです。

【富良野市環境白書】 環(32P)・温(31P)

市の環境に関する取り組みの現状を、わかりやすく解説した資料です。市では毎年、年度末に作成をしており、ホームページでも公表しています。

【ふらの市民環境会議】 環(30P)

市の市民や事業者等の代表者から構成される会議です。市の環境の保全・創造・改善に向けて、市民・事業者・市の各主体の取組状況や様々な環境保全のアイデア等についての意見や提言を行う組織として位置づけられています。

【ふらの自然塾】 環(31P)

作家の倉本聰さんが主宰する自然再生プログラムです。ゴルフ場跡地を元の森に還す自然返還事業と、そのフィールドを使った環境教育事業が行われています。

【ペレットストーブ】 環(26P)

燃料に木質ペレットを使用する暖房器具です。バイオマス燃料を使うためカーボンニュートラル（排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同量であるため、二酸化炭素が増えないという概念）であることや、地域で生産されたペレットを使用することで木材の地産地消につながるなどの効果があります。

ま行

【マイクロプラスチック】 環(37P)

大きさが 5mm 以下の微小なプラスチック粒子のことです。プラスチックは、自然分解されず半永久的に残る、汚染物質を吸着しやすいといった特徴があるため、ポイ捨てされたプラスチック容器などが摩耗しながら海へ流され、海洋生物が誤食してしまうことで毒性が蓄積していき、それらを食べる動物や人間に悪影響を及ぼすことが懸念されています。マイクロプラスチックが環境に広がってしまうと、回収して除去することが極めて困難であるため、発生源であるプラスチックの使用を禁止するなど、根本的な対策が必要となっています。

【真夏日】 温(11P)

最高気温が30度以上となる日のことです。

【真冬日】 温(12P)

最高気温が0度未満となる日のことです。

【未来農業 EXPO】 環(14P)

市が主催する、次世代に向けた農業についてを考える博覧会です。未来の農業に関する講演やセミナーなどを行っています。

【未利用バイオマス】 温(26P)

稲わら・麦わら・もみ殻などの非食用の農作物や、費用対効果が合わずに山林に放置されて搬出されない林地残材など、利用が進んでいないバイオマスのことです。

【民有林】 温(27P)

国有林に対し、個人、または企業・社寺などの法人が所有する私有林と、市町村や県の所有する公有林をあわせた総称です。市内では約27,000haで、その大半は東京大学演習林となっています。

【メイドインフラノ事業】 環(14P)

富良野地域の食材をつかって富良野でつくった商品をブランド認定する制度です。富良野の食ブランド価値の向上、地域の食文化の継承、新商品の創出や雇用の確保・拡大などを目的としています。

【メタン (CH₄)】 温(4P)

温室効果ガスの1つで、自動車の走行、稲作、廃棄物の埋立、家畜の腸内発酵などから排出されます。温室効果は二酸化炭素の25倍となっています。

【猛暑日】 温(11P)

最高気温が35度以上となる日のことです。

【木質ペレット】 温(27P)

丸太、樹皮、枝葉などの木質バイオマスを細かい顆粒状に砕き、圧縮して棒状に固めたもので、専用のボイラーやストーブなどで暖房用燃料として使用されています。製材所などから排出される樹皮、おがくず、端材などの残材・廃材を有効活用して作成されることが多くなっています。

や行**【有機肥料化】** 環(15P)・温(25P)

家庭から出る生ごみや農産物残渣等を発酵処理し、有機肥料にすることです。

【ユニバーサルデザイン】環(23P)

文化・言語・国籍の違いや、体格・性別・年齢などの差異や障害・能力を問わず、誰でも利用することができる施設・製品・情報の設計の手法です。

ら行

【リサイクル率】環(21P)

収集されたゴミや持ち込まれたゴミのうち、どれだけが資源化されたのかを示した割合です。環境省では、「(直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量) / (ゴミ処理量+集団回収量) × 100」によってリサイクル率を算出しています。

【6次産業化】環(14P)

1次産業としての農林漁業、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業を総合的・一体的に推進し、農山漁村の地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組です(1次 × 2次 × 3次 = 6次産業)。

【六フッ化硫黄 (SF₆)】温(4P)

温室効果ガスの1つで、ガス変圧器等電力機器の製造・使用・廃棄などで排出されます。温室効果は二酸化炭素の22,800倍となっています。

わ行

【ワンウェイプラスチック】環(20P)

一度使用したあとに廃棄されることが想定されているプラスチック製品で、プラスチックストローや、レジ袋、プラスチックトレイなどが該当します。

【ワンストップ】環(33P)

ワンストップとは、一つの場所で様々なサービスが受けられることで、行政手続きにおいては、これまで複数の部署・庁舎などにまたがっていた手続きを一度にまとめて行えるような環境を指しています。